

問 除去物の最終処分の状況は如何に

答 有意な測定値は検出されていない

問 東日本大震災により、汚染された除去物土壌・草木類が発生した。昨年、村は環境省から受託され、「除去土壌」の埋設実証試験を行った。そのモニタリングの状況等と、除去土壌埋設地の今後の措置、管理の検討状況はいかがか。また、残された除去草木類は、今後の処理、処分をどのように進めるのか。埋設事業におけるガイドラインについて現在の検討状況を伺う。

答 村内公園等の土壌・草木類は昨年11月までに原子力科学研究



新政とうかい
たけべ 武部 けんいち 議員



除去物(土壌・草木類)のフレコンを全て機構に移送した後の状況「東海十二景が戻った白方公園」

所敷地内に全て運搬した。除去土壌は埋立実証試験が行われ、草木類(除染廃棄物)は保管されている。実証事業における空間線量率に有意な値は検出されず、週1回のモニタリングを継続中。草木類は経年変化もあり、繊維化・腐葉土化し、焼却・減容が困難な状態。今後の取り扱い等を環境省と協議中。国ではこれら実証事業の結果を基に、ガイドラインの検討を進めている状況である。

問 高齢者の生活支援、拡充の課題は

答 担い手不足と認識している

問 地域包括ケアの構築が求められている中、医療・介護・福祉の多職種連携の取り組みは。

答 医療・介護・福祉の関係者が情報交換を行いながら、顔の見える関係づくりを築く「むらカフェ」を実施しており、4月には初めて症例を元に事例検討会を開催した。今後、定期的に関係を深めるよう関係を深めていく。また、情報連携ツールとして「メディカルケアステーション」の運用



新政とうかい
あらかき まいこ 新垣 麻依子 議員

医療・介護・福祉関係者のための…

むらカフェ

今回のテーマ：「茶社」を巡る語り

「むらカフェ」は、ケアに関わるすべての関係者の参加を促す場。医療・介護・福祉関係者が情報交換を行いながら、顔の見える関係づくりを築く。4月には初めて症例を元に事例検討会を開催した。今後、定期的に関係を深めるよう関係を深めていく。また、情報連携ツールとして「メディカルケアステーション」の運用

日時：令和元年 6月12日 19:00~

場所：東海総合センター 第1会議室

対象者：医師、看護師、福祉士、介護士、ケアマネジャー、地域包括ケア推進員、関係者

申込：先着順

申込先：東海総合センター 第1会議室

医療・介護・福祉のコミュニティの場となっている村カフェ

を今年の4月から開始し、地域包括支援センターとの連携をより強いものにしていく。

問 地域支え合い活動団体の支援や高齢者の生活支援サービスを拡充していく上での課題は。

答 高齢化や役員の担い手がいないため、団体存続も考えなければならぬ課題のひとつであると認識している。介護予防活動を実施する地域支え合い活動団体への働きかけを行うと共に、生活支援における実態や状況に聞くなど、ニーズに対応できるように取り組んでいく。